

配信元 公益財団法人東北活性化研究センター
〒980-0021 仙台市青葉区中央2丁目9番10号
TEL 022-222-3394 FAX 022-222-3395

報道関係各位

平成29年4月17日

「6次産業化による東日本大震災からの復興加速」調査報告書
公表のお知らせ

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：海輪 誠）は、この度、「6次産業化による東日本大震災からの復興加速」調査報告書を取りまとめましたのでお知らせいたします。

東北地域における6次産業化については平成26年から産業の付加価値や人材育成について継続的に調査を実施し、それらを踏まえ成長が期待される6次産業（農水産業及び飲食品加工業）に着目し、東日本大震災からの復興を加速させるための振興策を探りました。

本調査報告書では、東北の豊かな自然を生産要素として重視し、6次産業化による生産性の向上を目指すことが必要であるとの認識に至り、復興加速には①高価格・ブランド戦略による付加価値向上と②効率化による生産性の向上の2つの方向性と、①には製品に対する自然の寄与に関する知識、②には機械や組織を効率的に運用する知識がそれぞれ必要であると結論付けました。

本報告書が自治体、食品産業関連企業等、6次産業関係者の皆様方の一助となれば幸いです。

なお、報告書の全文は当センターホームページ（<http://www.kasseiken.jp>）に掲載予定です。

添付資料・・・調査概要

このプレスリリースに関するお問い合わせ先

公益財団法人東北活性化研究センター 調査研究部 伊藤
〒980-0021 仙台市青葉区中央2丁目9-10 セントレ東北9階
TEL 022-222-3394 FAX 022-222-3395 E-mail chosa@kasseiken.jp



6次産業化による東日本大震災からの復興加速 調査概要

プレスリリース資料

平成29年4月17日（月）

公益財団法人 東北活性化研究センター 伊藤 孝子

〒980-0021 仙台市青葉区中央2丁目9番10号セントレ東北9F

TEL 022-222-3394 FAX 022-222-3395

E-mail: itou@kasseiken.jp

目次

- 1 はじめに
- 2 東北における産業の生産要素の概況
- 3 広義の6次産業における復興状況
- 4 復興が期待される特徴的な産業とビジネスモデル
- 5 特徴的な産業やビジネスモデルのポイントと将来展望
- 6 まとめ 復興加速化に向けて

1 はじめに

平成26年度調査

「東北の食品関連産業集積に関する現状について」

平成27年度調査

「6次産業加速化に向けた人財育成のあり方に関する調査」

平成28年度調査

「6次産業化による東日本大震災からの復興加速」

平成29年度調査

「東北における6次産業の輸出促進調査」 (予定)

1 はじめに

■ 問題

基幹産業である農水産・食品加工業の復興の遅れ
労働集約的で生産性が低迷

■ ヒント

海外（欧州）：**成長産業**

→農水産業と加工業が連携し、生産物の高品質・高生産
を実現（広義の6次産業化）

日本：**斜陽産業**

→農水産業による多角化の推進（狭義の6次産業化）

復興加速化には広義の6次産業による生産性の向上が必要
清酒、酪農、水産業とそれぞれの生産要素に着目

2 東北における産業の生産要素の概況

■ 生産の諸要素

自然※、資本（機械、知識）、労働の3つ



東北の復興加速には、豊かな自然を生産要素として重視することが必要

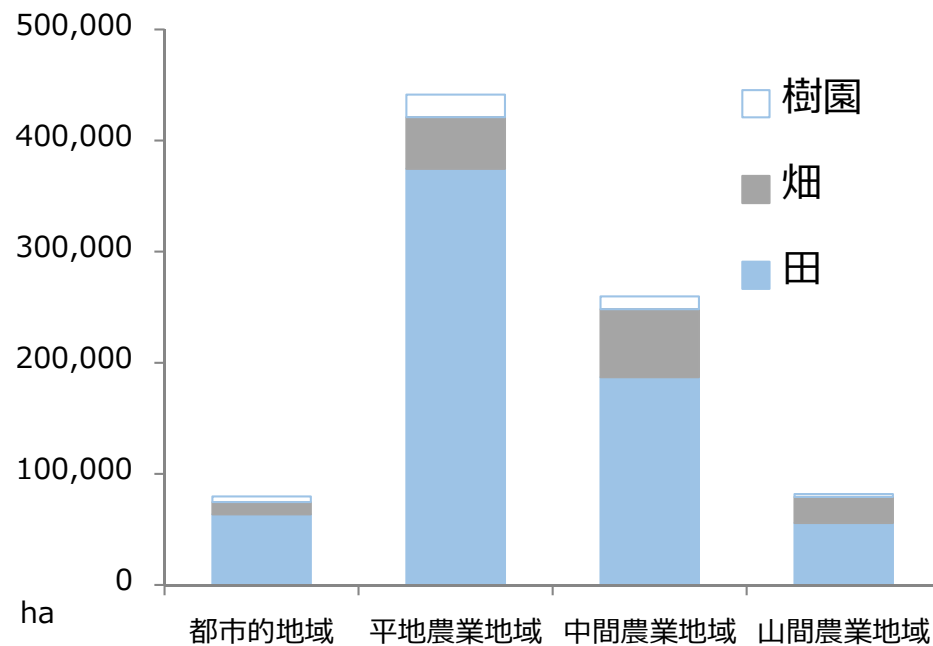
※ 生産の諸要素は「土地」であるが、「土地」は自然が無償で提供してくれる原料や力を指すことから「自然」と表現した

2 東北における産業の生産要素の概況

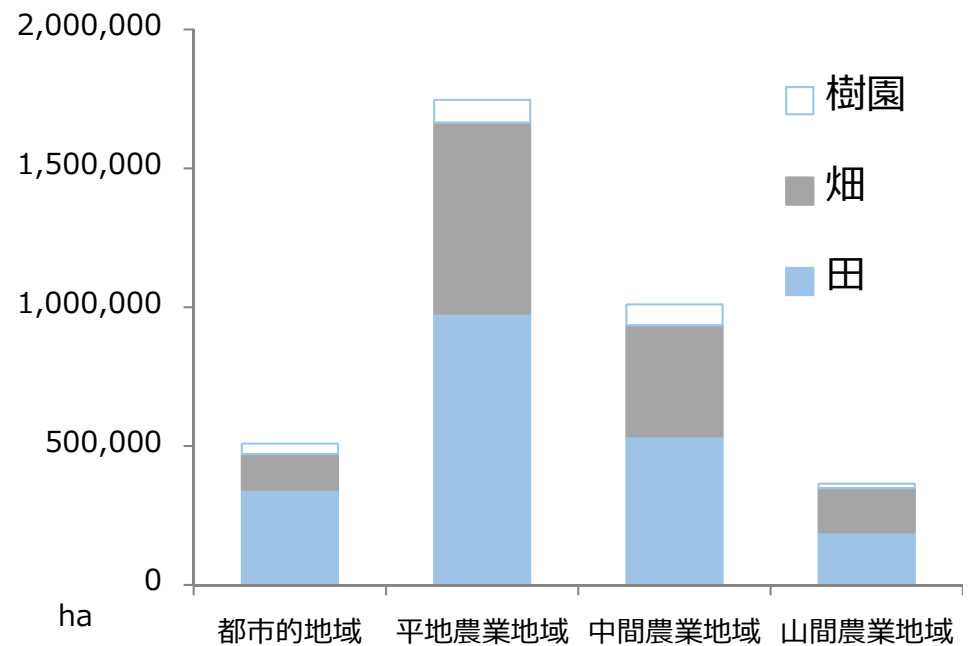
(1) 自然

- 東北は水田が多く、米農業地帯として恵まれている

経営耕地の状況-東北7県



経営耕地の状況-全国



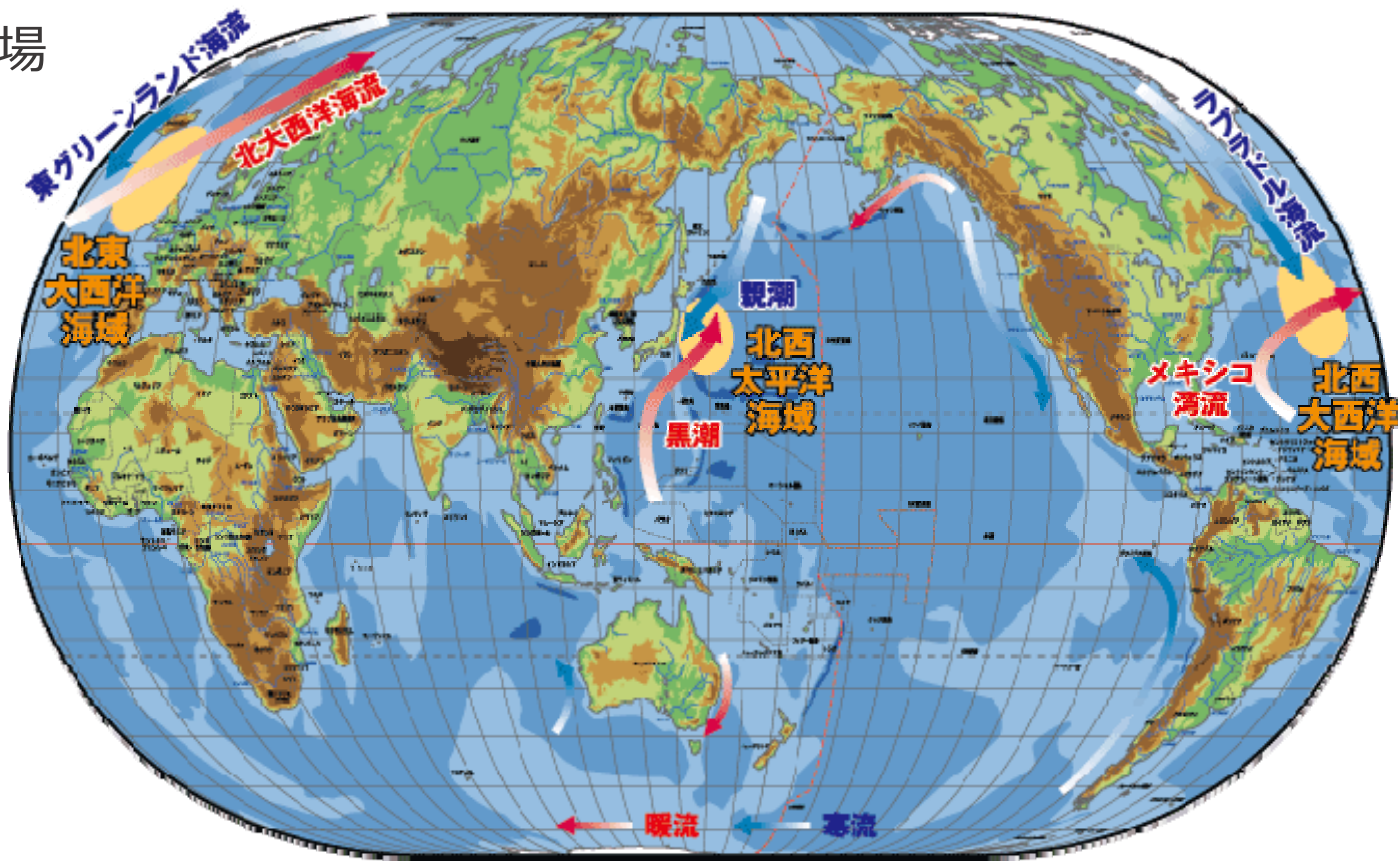
出所：農林水産省「2010年世界農林業センサス」農業地域累計経営耕地の状況

2 東北における産業の生産要素の概況

(1) 自然

- 三陸沖が世界三大漁場

世界三大漁場



出所：水産庁「平成21年度 水産白書」

2 東北における産業の生産要素の概況

(2) 資本

- 工業の資本が大きく、研究開発や機械設備に優れている

東北7県における産業別の一人当たり付加価値

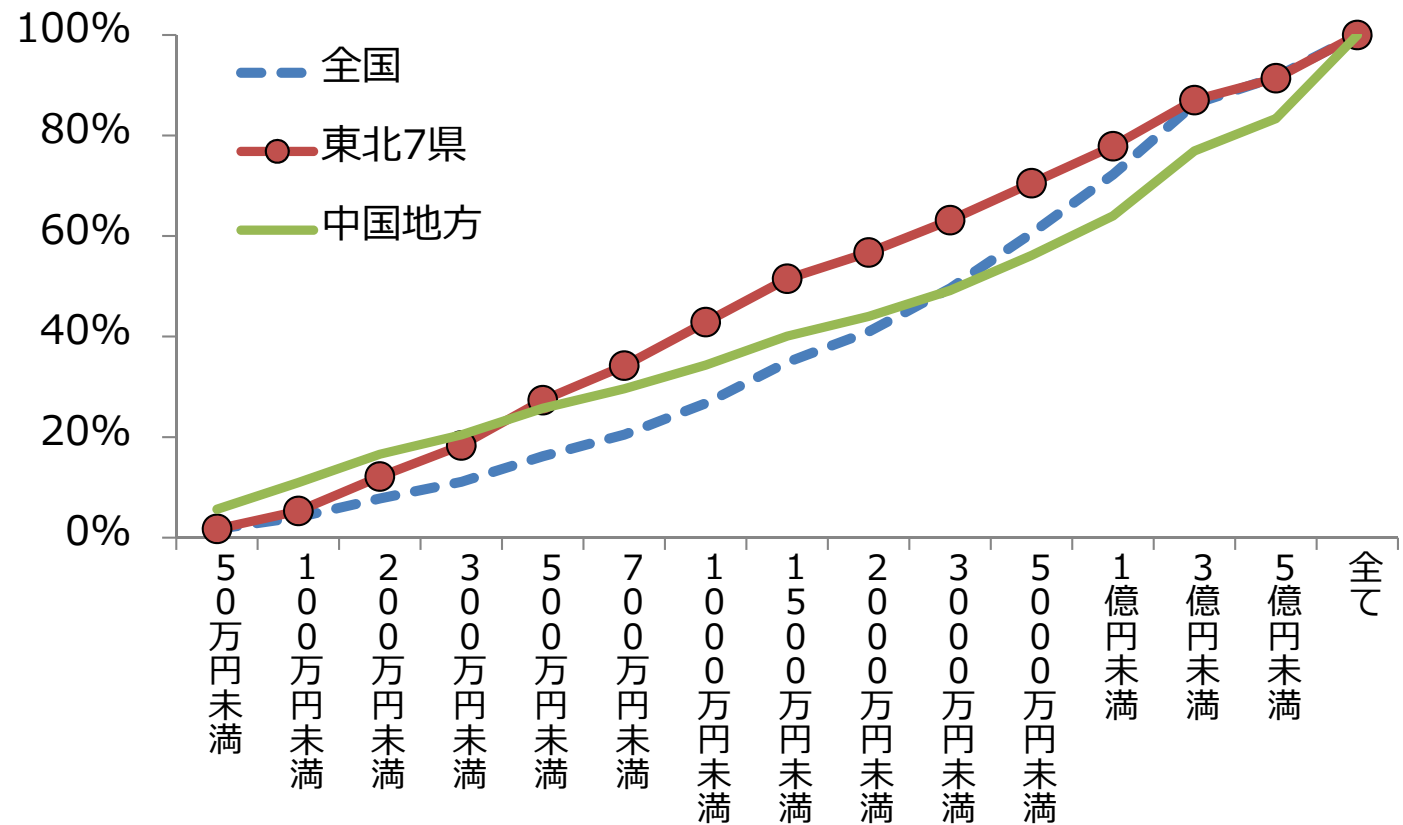
産業	付加価値額	(出所)
米農業	1.2百万円	2013生産農業所得をベースに推計
漁業	3.3百万円	2013県民経済計算
清酒製造業	9.8百万円	2013工業統計

2 東北における産業の生産要素の概況

(2) 資本

- 東北は全国に比べ、売上が小規模

売上規模別・累積
シェア



出所：農林水産省（2015）「農林業センサス」

2 東北における産業の生産要素の概況

(3) 労働

- 飲食品工業の従事者が最も多く、次いで米農業、漁業

東北7県の産業別従事者数（人）

区分	人数（65歳未満）	参考：65歳以上	時点
米農業（推計）	106,124	191,005	2015
漁業	17,243	9,848	2013
飲食品工業	141,792		2013
（清酒製造業）	5,353		2013

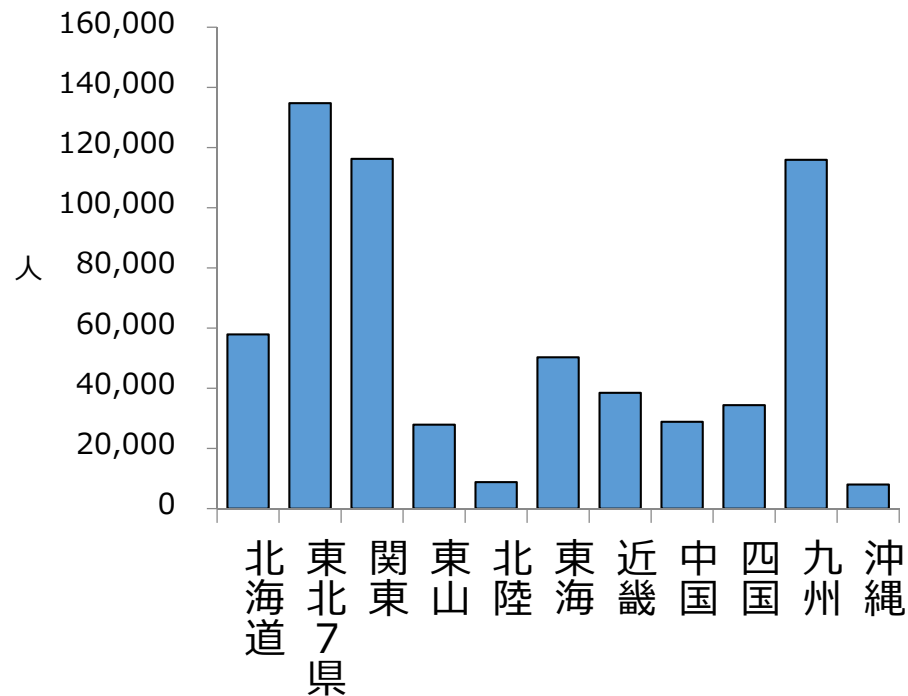
出所：農林業センサス、漁業センサス、工業統計表。農林業及び漁業センサスは5年に一回の実施における最新時点を採用、工業統計は統一可能な最新時点を採用。

2 東北における産業の生産要素の概況

(3) 労働

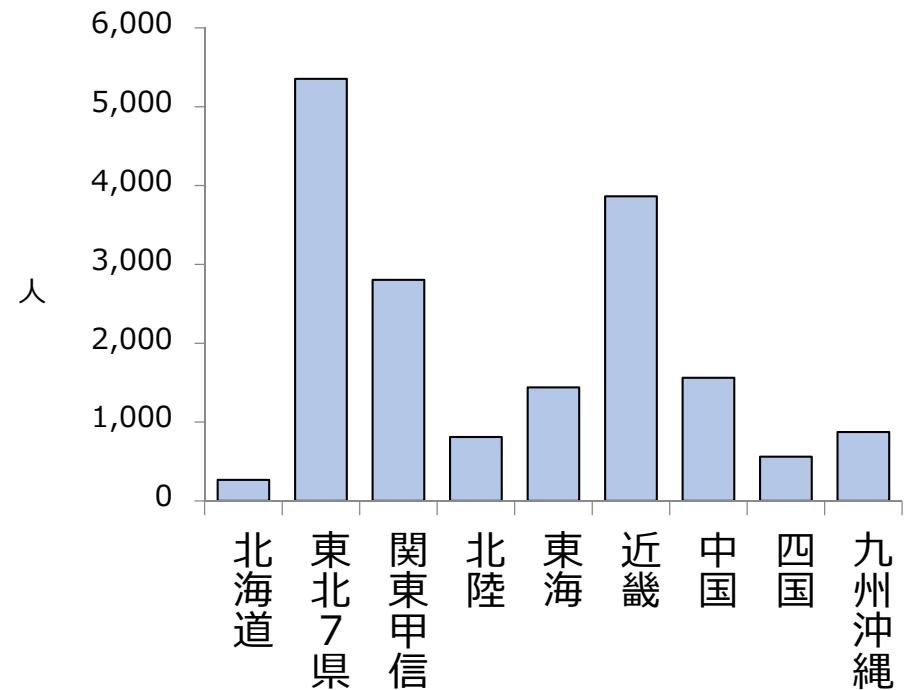
- 農業及び清酒製造業従事者が最も多い

農業従事者数
(2015：65歳未満基幹的農業従事者)



出所：農林水産省（2015）「農林業センサス」

清酒製造業従業者数（2013）



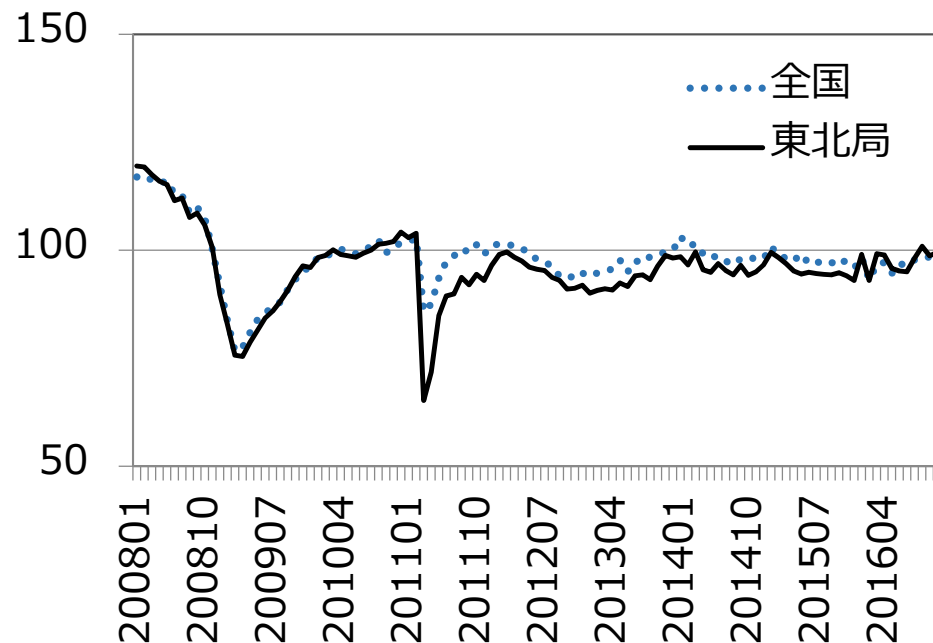
出所：経済産業省（2013）「工業統計表」

3 広義の6次産業における復興状況

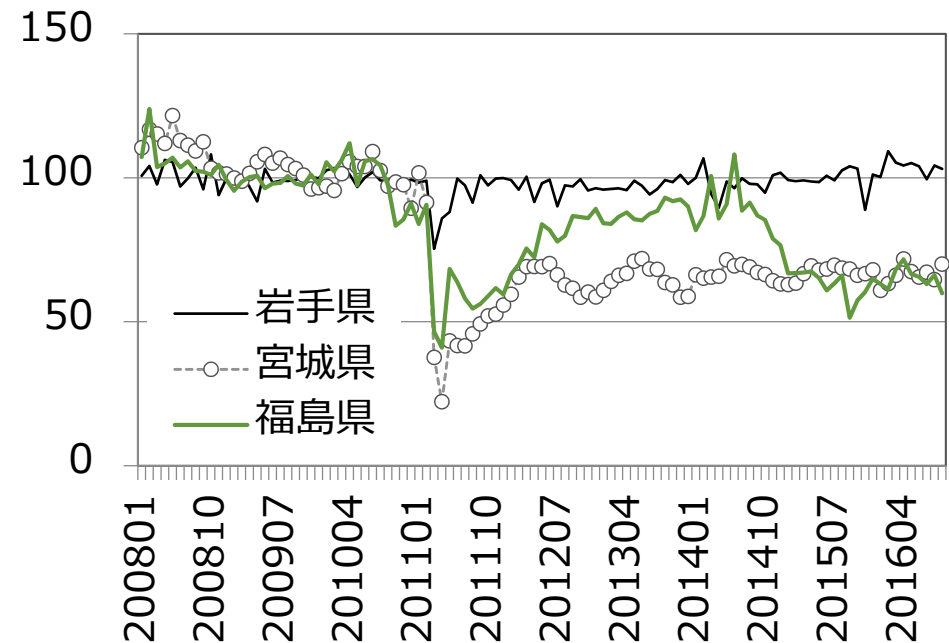
(1) 工業の復興状況

- 鉱工業指数は、2016年以降は全国水準に近い回復
- 食料品工業は岩手県を除き、低迷が続く

鉱工業生産指数グラフ



食料品工業鉱工業生産指数推移



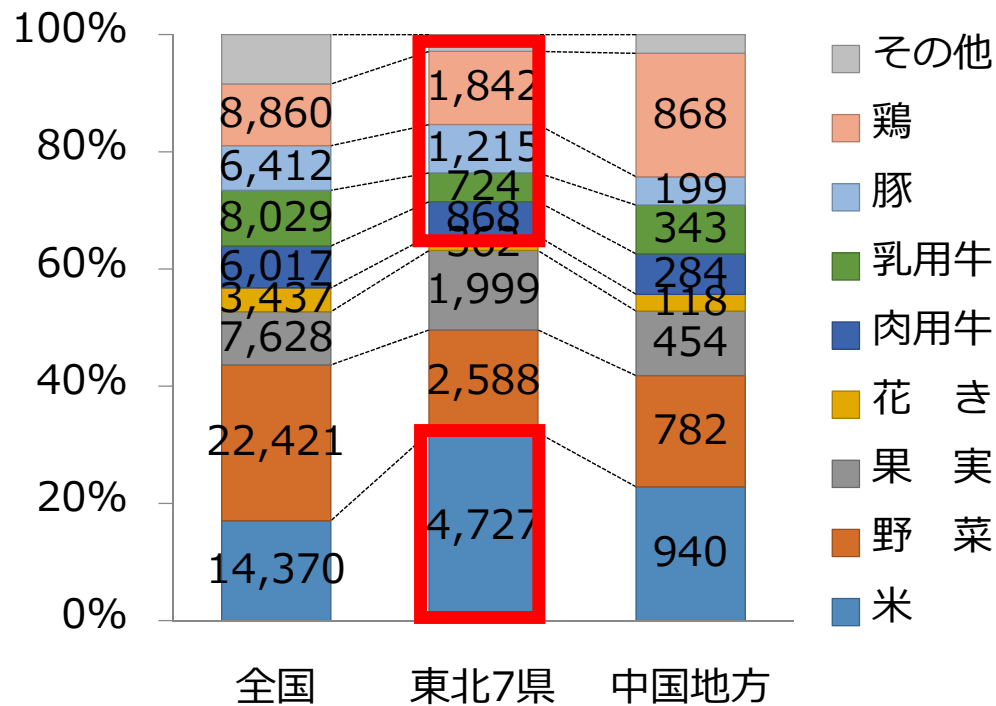
出所：経済産業省「地域別鉱工業指数（季節調整済）」、（2010=100）

3 広義の6次産業における復興状況

(2) 農業の特徴と復興状況

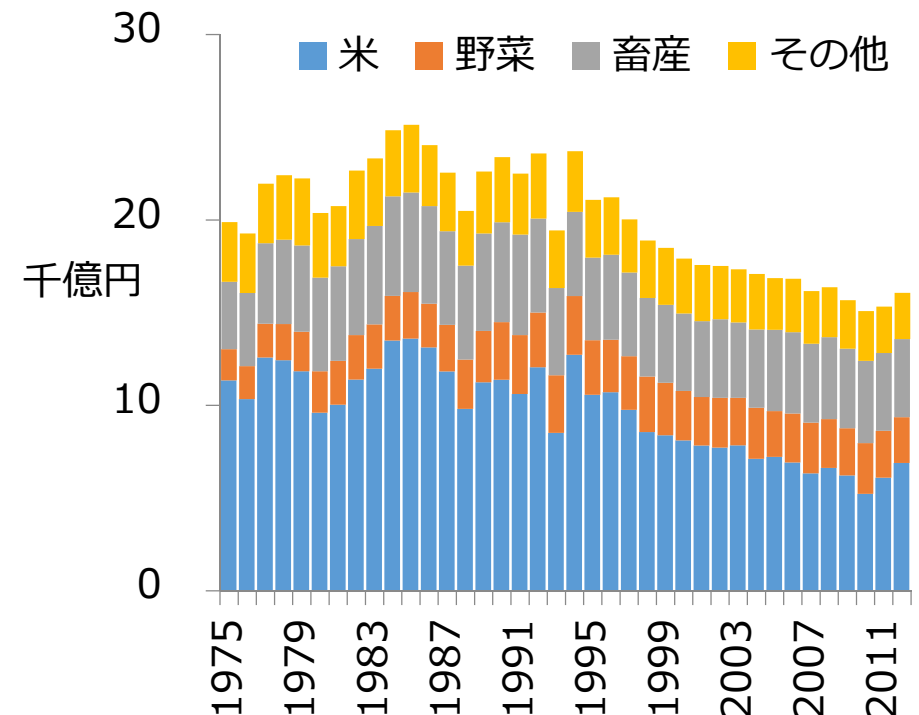
- 米のウエイトは大きいですが、産出額は逓減傾向
- 酪農の生乳産出額は逓減傾向

農業産出額構成比（2014、数字は億円）



出所：農林水産省（2014）「生産農業所得統計」

東北7県の農業産出額の推移



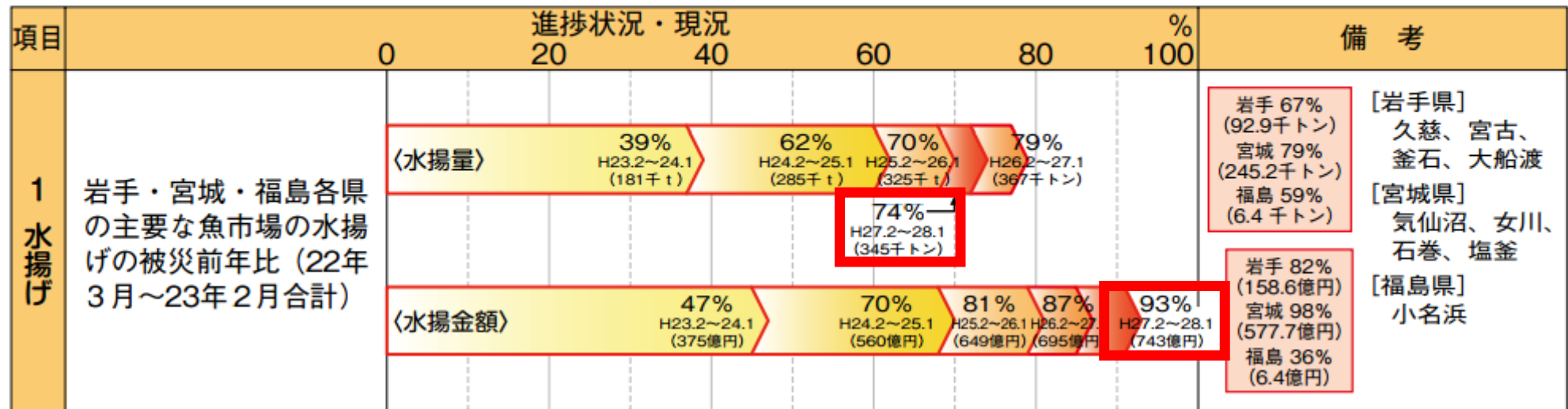
出所：農林水産省（2014）「生産農業所得統計」

3 広義の6次産業における復興状況

(3) 水産・同加工の特徴と復興状況

- 被災した漁港施設及び漁船は90%以上が復旧
- 養殖施設は復旧が進み、カキ養殖の出荷は本格化
- 水揚量で74%、水揚金額で93%の回復

図Ⅱ-5-1 水産業復旧の進捗状況（平成28（2016）年3月1日取りまとめ）



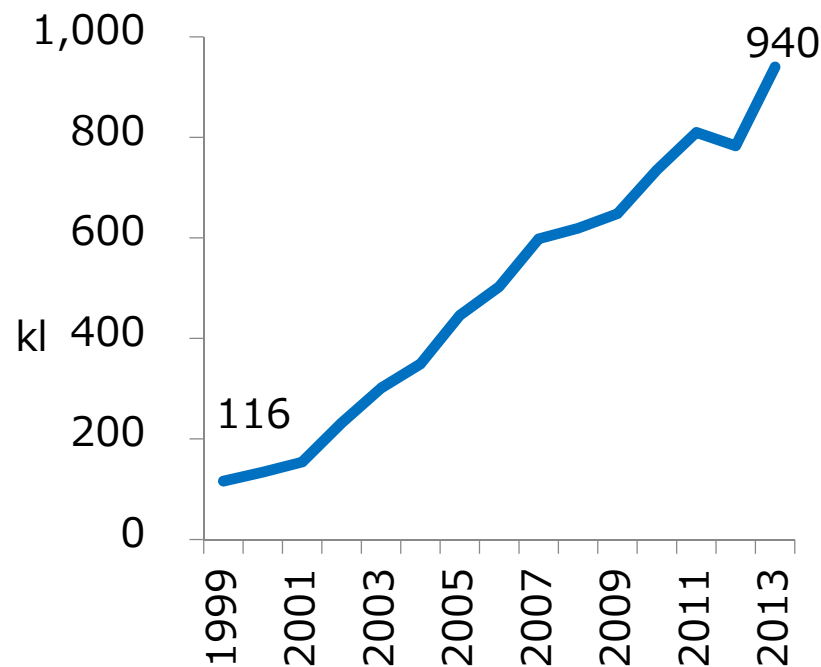
出所：水産庁（2016）「平成27年度水産白書」

4 復興が期待される特徴的な産業とビジネスモデル

(1) 高級清酒及び酒米

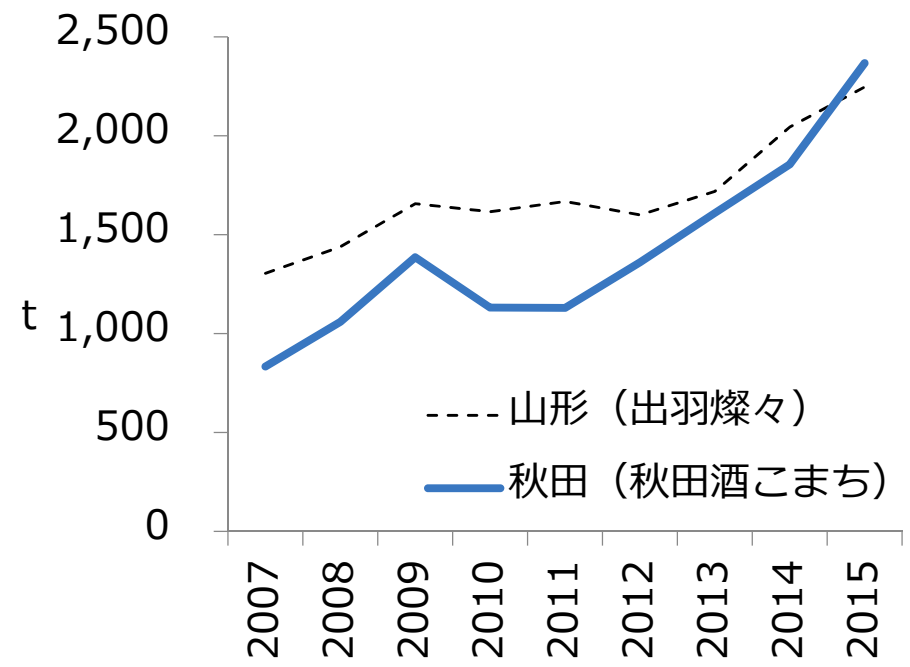
- 高級清酒の出荷が増加し、海外輸出も好調
- 酒米の作付け増加（米農業の大規模化及び効率化にも期待）

東北（6県）の清酒輸出免税数量の推移



出所：仙台国税局「清酒の輸出免税数量の推移」

東北独自の酒米・検査量推移



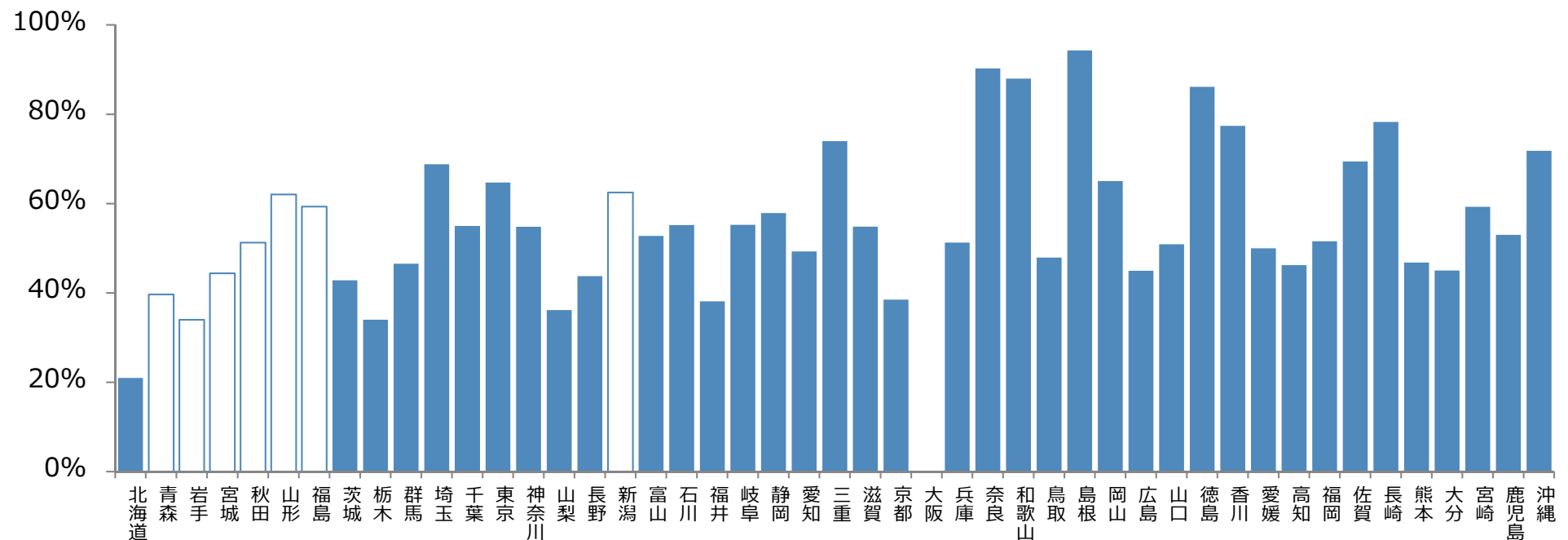
出所：農林水産省「米の農産物検査結果」

4 復興が期待される特徴的な産業とビジネスモデル

(2) 酪農業

- 生産部門と加工部門それぞれが科学技術を応用し経済性を追及
- 自然を活用した山地酪農へのチャレンジにも活性化の兆し

乳用牛への黒毛和種人工授精状況



出所：一般社団法人日本家畜人工授精師協会（2015）「年次別人工授精状況（授精延べ頭数）」

4 復興が期待される特徴的な産業とビジネスモデル

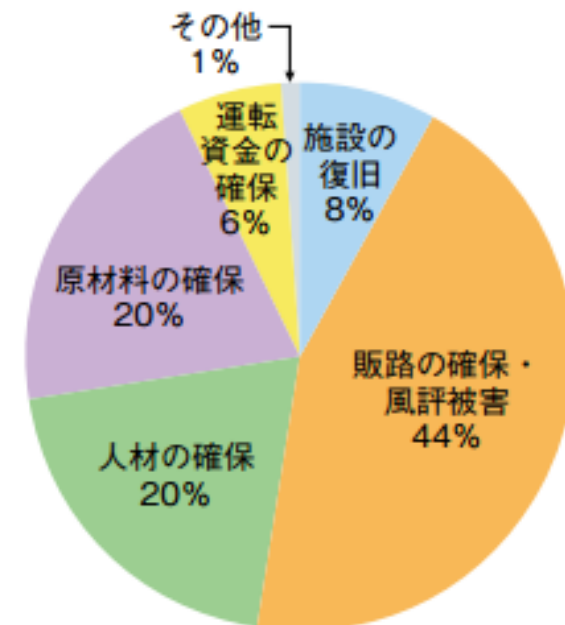
(3) 水産・同加工業

- 最新鋭の機械設備導入の反面、流通が課題
- 自然の力を最大限活用した新しい養殖方法に注目

大船渡市場



復興の課題アンケート調査
〈復興における問題点〉



出所：水産庁「水産加工業者における東日本大震災からの復興状況アンケート」（第3回（平成27（2015）年11月～28（2016）年1月実施））

5 特徴的な産業やビジネスモデルのポイントと将来展望

■ 6次産業において重視すべき生産要素

- 人口減少時代を迎え、重要な生産要素は労働から資本に移行
- 自然を重視するチャレンジは長期的に有望なビジネスモデル

東北における特徴的産業やビジネスモデルの重視すべき生産要素

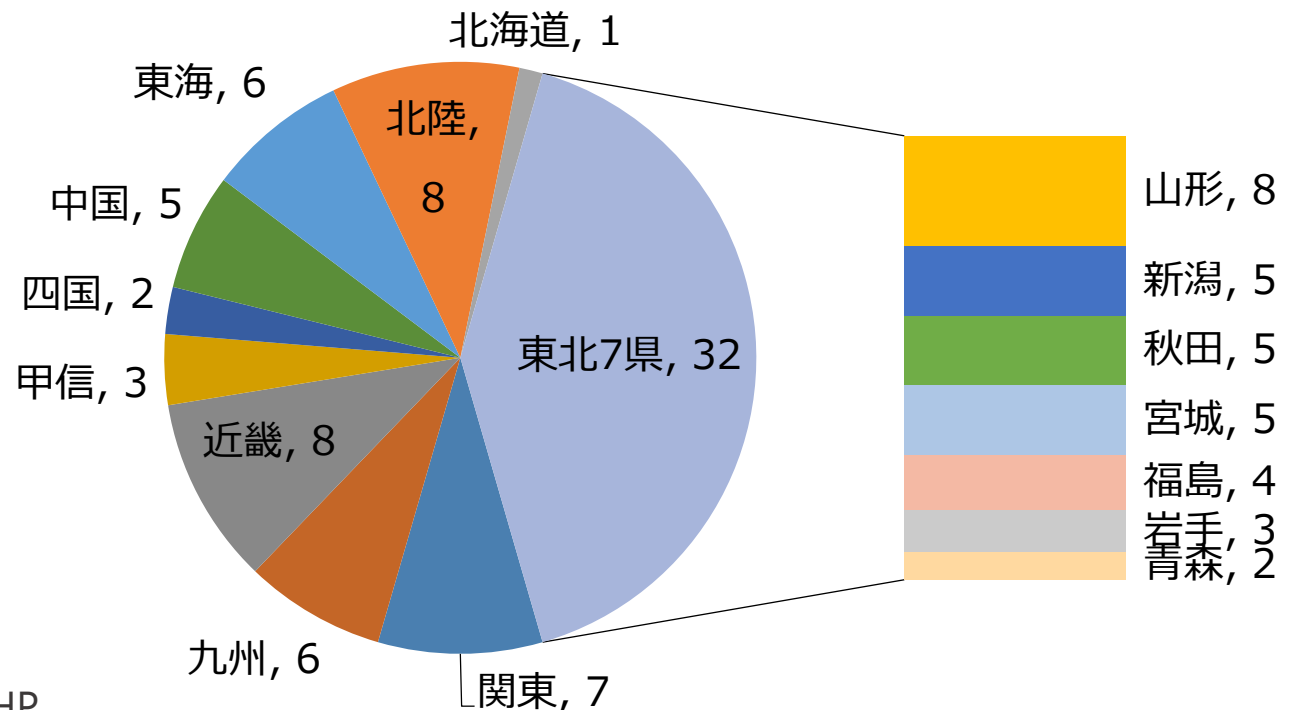
		重視すべき生産要素		
		自然	資本（機械、知識）	
清酒・米	清酒	△ 酒米の品質向上（原産地表示） による高付加価値化に期待	○ センスや知識による高付加価値化	← 労働
	食米		○ 機械の有効利用による効率化	
酪農	山地酪農	○ 自然放牧による高付加価値化	△ 生産技術向上や小売業との連携 による高付加価値化に期待	
	一般酪農		○ 科学技術を応用した効率化	
漁業	自然重視型養殖	○ 密度当たりの養殖数減による 生産効率の向上	△ 新養殖技術や小売業との連携 による高付加価値化に期待	
	一般漁業		○ 機械設備導入による効率化	

5 特徴的な産業やビジネスモデルのポイントと将来展望

(1) 清酒

- 資本（センスや知識）が付加価値や差別化の源泉
- 国際的な評判を背景とした高価格戦略が可能
- 地域の自然（土壌や気候など）を反映した酒米に期待

パーカーポイントにより高級酒と評価された78銘柄の地域別分布



出所：ワイン・アドヴォケートHP

5 特徴的な産業やビジネスモデルのポイントと将来展望

(2) 山地酪農（例：岩手県岩泉町 なかほら牧場）

- 牛の生態に合わせた飼育方法による乳製品のブランド化
- 自社ならではの製造ノウハウ（資本）が自然の付加価値を活かす

なかほら牧場全景



山地で草を食む牛（なかほら牧場）



5 特徴的な産業やビジネスモデルのポイントと将来展望

(3) 自然重視型漁業（例：殻付き牡蠣）

- 海洋環境に配慮しつつ、生産性を向上させる新しい養殖方法（シングルシード方式）
- 殻のサイズを均一化し、ブランド牡蠣としての提供を実現
- 宮城県ではシングルシード養殖によるブランド牡蠣「あまころ牡蠣」や「あたまっこかき」を市場に供給

6 まとめー復興加速化に向けて

■ (再掲) 6次産業において重視すべき生産要素

- 人口減少時代を迎え、重要な生産要素は労働から資本に移行
- 自然を重視するチャレンジは長期的に有望なビジネスモデル

東北における特徴的産業やビジネスモデルの重視すべき生産要素

		重視すべき生産要素		
		自然	資本（機械、知識）	
清酒・米	清酒	△ 酒米の品質向上（原産地表示） による高付加価値化に期待	○ センスや知識による高付加価値化	← 労働
	食米		○ 機械の有効利用による効率化	
酪農	山地酪農	○ 自然放牧による高付加価値化	△ 生産技術向上や小売業との連携 による高付加価値化に期待	
	一般酪農		○ 科学技術を応用した効率化	
漁業	自然重視型養殖	○ 密度当たりの養殖数減による 生産効率の向上	△ 新養殖技術や小売業との連携 による高付加価値化に期待	
	一般漁業		○ 機械設備導入による効率化	

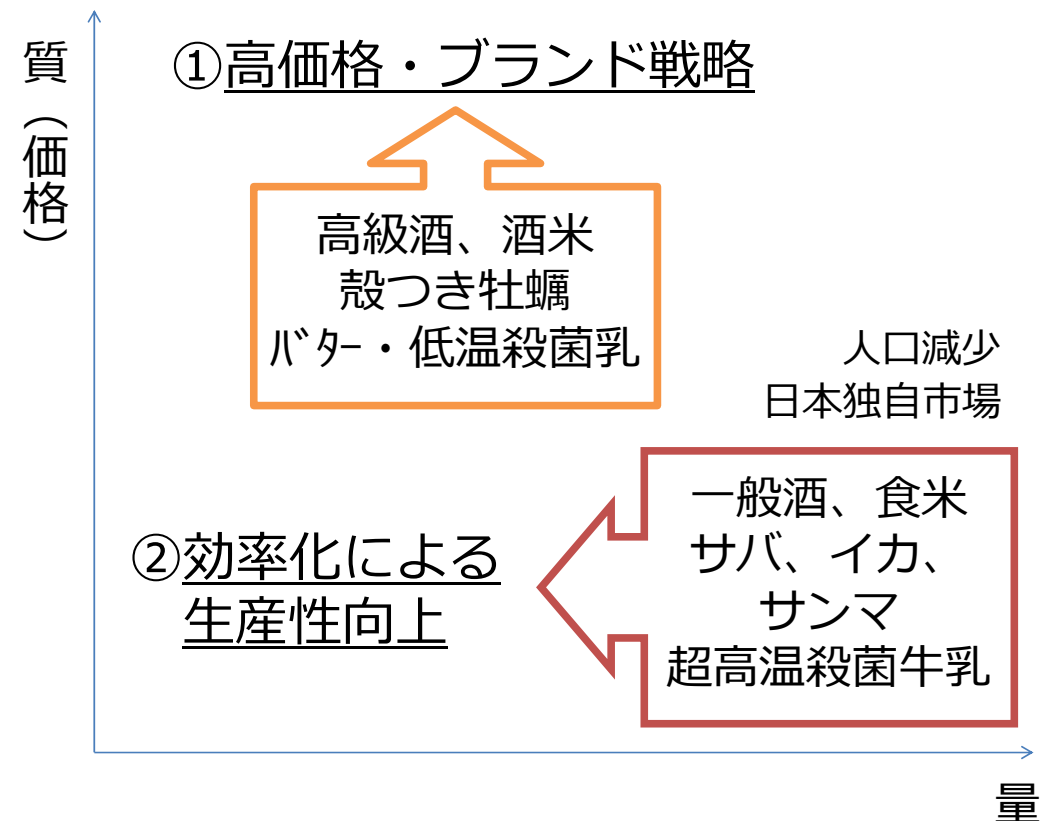
6 まとめー復興加速化に向けて

(1) 復興加速化に向けた2つの方向性

①高価格・ブランド戦略
による付加価値向上

②効率化による
生産性の向上

将来イメージ



6 まとめー復興加速化に向けて

(2) 重要な2つの知識

① 産品に対する自然の寄与に関する知識

ブランド化には産品に対する自然の寄与を論理的、科学的に説明する知識が必要

② 機械や組織を効率的に運用する知識

食米では機械化とネットワーク化とそれらの管理運営、漁業は高鮮度流通のノウハウが必要

2つの知識の獲得や提供には飲食品工業（加工部門を担う主体）が担うべき役割は大きい

6 まとめー復興加速化に向けて

(3) 今後の期待

- 自然の豊かさを産業に付加価値として織込むためには
飲食品工業（加工を担う主体）の高度な知識やノウハウが必要
- 飲食品工業による科学的見地は、農水産物と製品それぞれの付加価値を相乗的に高める
- 科学的見地をこれまで培ってきた職人技と自然を活用して美味しさに繋げブランド化することに期待